

「居場所」

佐賀大学教育学部附属中学校3年 小野原 和子

先日、嫌なものを見た。図書館へ行ったとき、早く行きすぎてしまった私は、開館まで門の前で待っていた。同じ門の前には、高齢の男性がいた。心の持ちようが悪かったようで、その男性は門の向こうにいる職員の人に怒鳴りちらかしていた。

「この税金泥棒が！」

とても強い言葉だと思った。聞いているこちらまで不快になった。私は図書館が大好き。いつも優しく接してくれる職員さんも大好き。門の向こうの職員の方はやんわりと対応していたものの、困っている様子がみてとれた。といいつつも私は何とかするべくもなく、結局、図書館が開館するまで見て見ぬふり。

家に帰り、そのことを弟に言うと彼も何か思いあたることがあったようで、苦々しい顔をしてこう言った。

「その人だって税金で暮らしているのにね。」

わずかな違和感。ぬぐえないもやもや。そうだね、と曖昧に返答しながらも心の中で思っていることは違っていた。

小さい頃から図書館に通いつめており、借りた本の冊数は五千冊を超える私。一冊を千円とすると、その恩恵は五百万円を超える。しかしそれ以上に、私が図書館に見いだしている価値は大きい。夏は冷房が、冬は暖房が入っていて、快適空間この上ない。友達と遊びに来たり、テスト前に勉強をしたり、家族で本を借りたり。私の生活にはいつも図書館がある。図書館は私の「居場所」であり、そしてそれは税金によってまかなわれている。

「税金泥棒」というのはパワーワードだ。差別的で、侮蔑的で、そしてとても失礼な言葉だ。一方、「税金で暮らしている」という言葉にも首をひねりたくなる。税金は私達の暮らしをより豊かにする用途で使われている。そして、その機会は全員に公平かつ公正に巡っているものだ。にも関わらず、税金の恩恵を否定するような物言いはいかなものか。

私達は皆が皆、国に税金をはらっている。国に税金をゆだねている。だから、私達の税金が、どのようにして、何に使われているのかを追うことはとても大切だ。しかし決して、それは税金によつての恩恵を、「居場所」を、否定するものであってはならない。

人によって大切なもの、大切にしたいものは様々だろう。私にとっては、それが図書館だ。大切なものはなくなってほしくない。

あなたにとっての大切なものは何ですか。

あなたにとっての「居場所」は、何ですか。